

No. 35

1996

9月1日発行

萩の郷

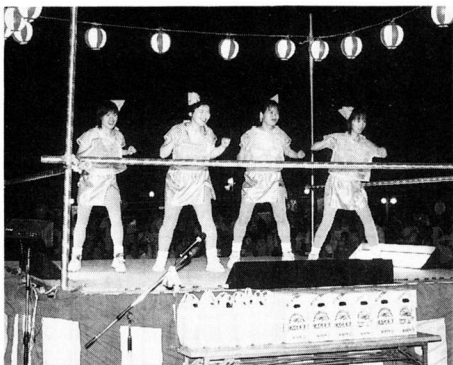
発行者
下市田区
発行責任者
富田隆仁
印刷
下市田・キタバヤシ印刷



▲200年大祭記念出演の祝い獅子のおはやし



▲賑わうお楽しみコーナー



▲若さ溢れるエアロビクス



▲ことしは〇×ゲームで一喜一憂



▲盛りが上っている各区座席



▶気合のはいった踊り風景



▲子どもが楽しみな花火大会

第十回 萩の里祭 七月二十七日

―一、二〇〇人も集まって盛大にできる―

★プログラム★

☆第一部 六時四十分から
全員による納涼盆踊り大会

☆第二部 七時十分から
高森音頭他 各区発表会

☆第三部 七時五十分から
子供花火大会

☆第四部 八時二十分から
エアロビクス大会

☆第五部 九時から
納涼盆踊り大会

☆第六部 〇×クイズ大会もとり入れた
お楽しみコーナー開店

☆第七部 祝い獅子
記念出演

☆第八部 八時二十分から
エアロビクス大会

☆第九部 九時から
納涼盆踊り大会

☆第十部 〇×クイズ大会もとり入れた
お楽しみコーナー開店

☆第十一部 祝い獅子
記念出演

☆第十二部 八時二十分から
エアロビクス大会

☆第十三部 九時から
納涼盆踊り大会

☆第十四部 〇×クイズ大会もとり入れた
お楽しみコーナー開店

☆第十五部 祝い獅子
記念出演

☆第十六部 八時二十分から
エアロビクス大会

☆第十七部 九時から
納涼盆踊り大会

☆第十八部 〇×クイズ大会もとり入れた
お楽しみコーナー開店

☆第十九部 祝い獅子
記念出演

☆第二十部 八時二十分から
エアロビクス大会

☆第二十一部 九時から
納涼盆踊り大会

☆第二十二部 〇×クイズ大会もとり入れた
お楽しみコーナー開店

☆第二十三部 祝い獅子
記念出演

☆第二十四部 八時二十分から
エアロビクス大会

☆第二十五部 九時から
納涼盆踊り大会

☆第二十六部 〇×クイズ大会もとり入れた
お楽しみコーナー開店

☆第二十七部 祝い獅子
記念出演

☆第二十八部 八時二十分から
エアロビクス大会

☆第二十九部 九時から
納涼盆踊り大会

☆第三十部 〇×クイズ大会もとり入れた
お楽しみコーナー開店

区の情勢について

区長 富田隆仁

された、区道
路改良基金規
程(平成元年

区報も三十五号の歴史を数えました。又過日の萩の里祭りには大勢の皆様の御参加を頂き、第十回の記念すべき里祭りを盛大にとり行う事が出来ました。厚く御礼申し上げます。

◇公民館建設について

坂牧建築計画工房さんに委託した施工図面が出来上がりまして、五月十日郡市内九社の皆様に参集をお願い現地説明会を行いました。五月二十日入札を行いました。

その結果、株式会社三六組に於て一億八千六百万円にて落札されました。(昭和三十五年の建設時株式会社三六組)当初から二億円位にて建設をと考えておりました数字に近く、消費税、設計施工管理費、土地ボーリング等々二億百四十万二千円で納まる見通しになりました。工事中は多少の増減がありますが若干数字が違つて参ります。又完成の見通しは年度末と考えておりますが、埋文調査及び基礎工事の変更により若干遅れる事も予想されます。

◇道路工事にともなう用地補助の打ち切りについて

昭和六十一年十一月制定

べと、寄付行為の変更を行い産業振興の方策の一つとして、町内二十一地区に農政協議会が設立されました。下市田に於ては一区北沢貞男さん、二区坂牧康弘さん、三区仲平儀弘さん、四区小島孝彦さん、五区棚田侑孝さん、以上五名の方々が選任されました。

今、農業は専業農家は別として、昭和一ケタの六十年代、七十代の方々により営まれております。兼業農家として引継がれる農家はともかくとして、町外に仕事をもち生活している皆様が、次の農業の担い手として考へて頂けるでしょうか。あと十年もすると現在の担い手が高齢化し農業の将来が心配されます。農地が原野になり、果ては山林への道をたどる事を想定すると将来の食糧確保の命題から、農家だけの問題ではなく非農家の方々と食糧確保の大義について考える時代が来ていると思ひます。遊休農地と土地利用について大いに議論を高めたいと思ひます。

◇保健センターについて

研究委員の皆様により視察等を含め、具体化について研究されております。

◇下市田河原を通る農免農

町の開発公社が振興公社

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

協賛会の発足について

道について

座光寺より黒沢下の公共下水道用地の北側へ、東へ抜ける工業団地内から明神

橋へと法線が決まりました。平成十二年完成の見通しであります。

御意見をお待ちしています。

萩山神社宝刀の取扱いについて

下市田区・萩山神社

審議委員会の意見

① 宝刀長光は行方不明でその存在は解明出来ない。従つて、昭和六十二年六月の神社記録簿にある添付書の文言は記録から削除すること。

② 長光の戻る可能性は誰も予測出来ない。年限が長いので難しいと思われる。「無銘刀」は、経過を付けて当面参考品として保管すべきである。以上。

区代議員会・神社氏子総代会合同会議の結果次の通り決定されました。

① 昭和六十二年六月四日協議の記事録について

記事録の内容

午後六時、社務所

出席者

伊谷唯介、北沢久治

林 藤司、伊奈川英代治

寺沢久雄、片桐元一

木村頌一(神官)

松島利三

区三役、氏子総代六名

此の件について毎年紛失、盗難等保管管理に代々苦慮しており、昭和六十二年六月四日古老先輩の諸氏の出席を願つて種々話し合いをする。大小二振だった。黒鞘に入っていた。鏑もついていた。等々の話も出たが、昭和四十五年北沢久治区長時代に萩山神社由緒録が発刊されて二振の宝刀の写真が載っており、それは現在の実物と相違なく、片桐元一氏が研ぎに出した時は昭和四十八年であり、昭和四十五年以降は不変なる事を確認した。一日も早く町の

資料館に預けて、一般に多くの人々に知って貰うべきだと全員の御意見で、早急に資料館に預ける事を約束する。

以上。

右について平成八年一月中旬富田区長より宝刀問題審議委員会の「萩山神社宝刀問題」についての報告書が桃沢氏子総代長に手渡された。その中の十五頁の、二、委員会の意見の①で宝刀「長光」は行方不明でその存在は解明出来ない。従つて六十二年六月の神社記録簿にある添付書の文言は、記録から削除すること」この指示について、二月四日神社氏子総代会で慎重に協議した結果「先輩氏子総代の記事で、現職氏子総代の手で削除は出来ない」という結論になった。二月十四日開催の区、代議員、氏子総代会合同会議で「記録は歴史として削除せず残す」ことに決議された。七月五日氏子総代会の折、上沼芳計審議委員の説明を聞き、記事録の文言は誤りである事を全員で認めたことを記録して残すことに決めた。

② 今後の取扱いについて

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。

調査報告書を付して無銘刀について社室から外し、参考品として当面保管して行く事とする。



▲さら地となつて遺跡発掘作業を行っている建築用地
ただ今基礎工事が着々と進められている。

(前ページの情勢参照)

重機による解体作業▶

下市田公民館(区民会館) 建築へ向けて進行中



委員会の事業につきましては、区民の皆様には日頃大変お世話様になっております。私達は各部落の地区計画から出されました水路改修の要望には一ヶ所でも多く出来まうように取り組んで参りました。

八年度事業も関係者の皆様方の御協力によりまして順調に進んでおります。それでは現在までの経過を報告させて頂きます。

県単事業では、北ノ原横井(七年度分)、JA惣菜予冷库北側の改修、又地元施工では、五区の北林さん南側、三区の南小ブール南側、農試北側その他数件が完了しました。又堤の土手草焼き、三区・四区・五区の皆さんに暑い中で作業をしていただいた草刈り作業も予定通りに終わりました。



委員会活動報告

水利委員長 伊奈川 和彦

これからの改修予定は、牧ノ内の堤は八、九、十年の三ヶ年計画で行う予定です。南小北側の排水路は土地総の関係で最終年度の十年に行うと聞いております。その他の改修工事は、

行政の年度末であります三月までに行います。又追加工事として新井堤の排水路・黒沢川の取水口の改修も近い内に行うことになっております。

尚昨年度の規約の改正で工事費の関係者の負担率が多少高くなりましたが御理解をお願いいたします。

一つお願いをしたいことは、年度内の工事の予定に

入れても関係者の間で話が詰めてない為出来ない事があります。今後部落で地区計画をたてる時には、関係者で確認をしてから提出をして頂きたいと思っております。

私達の任期も残り少なくなりましたが、残された期間でできるだけの事はして行きたいと思っておりますので、今後も御理解と御協力をお願いいたします。

平成7年度 下市田区一般会計決算報告書

(平成7年4月1日～平成8年3月31日)

収入合計 39,386,057円
支出合計 30,739,777円
差引残高 8,646,280円

収入金の部			支出金の部		
項 目	予算現額	決算収入額	項 目	予算現額	決算支出額
1. 区 費	16,137,000	16,129,700	1. 総 務 費	12,420,000	12,014,492
2. 繰 入 金	4,790,216	4,817,163	2. 厚 生 費	768,643	648,642
3. 町 支 出 金	6,280,000	6,946,088	3. 林 務 費	1,310,292	1,295,835
4. 財 産 収 入	1,605,491	1,430,921	4. 土 木 費	5,161,000	5,123,792
5. 寄 付 金	1,150,000	1,186,032	5. 水 利 費	5,562,000	3,703,453
6. 消防義務金	2,370,000	2,370,000	6. 消 防 費	3,342,157	3,253,957
7. 諸 収 入 金	2,588,000	2,939,212	7. 公 民 館 費	3,010,000	3,010,000
8. 前期繰越金	2,566,947	2,566,941	8. 予 備 費	5,913,562	1,689,606
9. 仮 受 金	0	1,000,000			
収入合計	37,487,654	39,386,057	支出合計	37,487,654	30,739,777

平成7年度 下市田公民館会計決算報告書

(平成7年4月1日～平成8年3月31日)

収入の部			支出の部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算現額	決算支出額
1. 繰 越 金	131,000	168,824	1. 総 務 費	1,870,000	1,867,896
2. 繰 入 金	3,010,000	3,010,000	2. 教 養 部 費	1,154,000	1,153,130
3. 補 助 金	900,000	1,061,000	3. 体 育 部 費	553,000	552,822
4. 雑 収 入	1,000	571	4. 視 聴 覚 部 費	278,000	276,018
			5. 図 書 部 費	107,000	106,941
			6. 予 備 費	80,000	79,875
合 計	4,042,000	4,240,395	合 計	4,042,000	4,036,682

地元出身町議との懇談会報告

教養部

下市田区と公民館主催による「地元出身町議と区民との懇談会」は、去る六月十五日午後七時より、下市田公民館改築工事の為、三区の力行会館大ホールに於いて行われました。

改選されて三年目の当日は、小宮山佳子・伊奈川義公・久保田昌幸・倉沢雄・

◎小宮山産業委員より

総務文教関係について

一般会計総予算額は、六十億三千八百万円。うち公債費（借金を返済する分）七億一千

◎倉沢建設委員より

下市田河原の道路、用水路は六億円の予算で建設予定。農免農道について一億五千万円の予算で座光寺

南大島川、惣兵衛堤防まで三年をめどに行う。明神橋は、九月二日午前十時より

◎久保田社会委員より

下市田保育園は園児百人の定員で去年は七十七人、

今年も七十人と園児数は減少。未満児保育の充実。乳幼児の医療費は、所得制限なしの無料化となる見通し。老人福祉について、町では、ホームヘルパーを二

◎原産業委員より

御大の館工事費約七億円をかけ、

八月二日にオープン。島岡監督の遺品の展示などをし、年間十五万人の利用客を想定し、町の活性化を図る。下市田工業団地南側の土地に、二社誘致決定。ふるさと林道不動滝線は、落石の為、改良工事中にて通行止めとなっている。

◎熊谷社会委員より

公共下水道の土地買収も済み、全体の工事を三期にわけ、第一期を下市田四

十一月に完成。南大島川の南、ふるさと農道・広域農道・農免道路など五線あるが、縦の線に力を入れたい。（湯ヶ洞線は道幅六・五m、歩道一・五m、全長三kmを二十億円の予算で計画。舗装工事を、二千万円の予算で行う。

◎熊谷社会委員より

公共下水道の土地買収も済み、全体の工事を三期にわけ、第一期を下市田四

十一月に完成。南大島川の南、ふるさと農道・広域農道・農免道路など五線あるが、縦の線に力を入れたい。（湯ヶ洞線は道幅六・五m、歩道一・五m、全長三kmを二十億円の予算で計画。舗装工事を、二千万円の予算で行う。

◎熊谷社会委員より

公共下水道の土地買収も済み、全体の工事を三期にわけ、第一期を下市田四

十一月に完成。南大島川の南、ふるさと農道・広域農道・農免道路など五線あるが、縦の線に力を入れたい。（湯ヶ洞線は道幅六・五m、歩道一・五m、全長三kmを二十億円の予算で計画。舗装工事を、二千万円の予算で行う。

◎熊谷社会委員より

公共下水道の土地買収も済み、全体の工事を三期にわけ、第一期を下市田四

十一月に完成。南大島川の南、ふるさと農道・広域農道・農免道路など五線あるが、縦の線に力を入れたい。（湯ヶ洞線は道幅六・五m、歩道一・五m、全長三kmを二十億円の予算で計画。舗装工事を、二千万円の予算で行う。

◎熊谷社会委員より

公共下水道の土地買収も済み、全体の工事を三期にわけ、第一期を下市田四

十一月に完成。南大島川の南、ふるさと農道・広域農道・農免道路など五線あるが、縦の線に力を入れたい。（湯ヶ洞線は道幅六・五m、歩道一・五m、全長三kmを二十億円の予算で計画。舗装工事を、二千万円の予算で行う。

◎熊谷社会委員より

公共下水道の土地買収も済み、全体の工事を三期にわけ、第一期を下市田四

十一月に完成。南大島川の南、ふるさと農道・広域農道・農免道路など五線あるが、縦の線に力を入れたい。（湯ヶ洞線は道幅六・五m、歩道一・五m、全長三kmを二十億円の予算で計画。舗装工事を、二千万円の予算で行う。

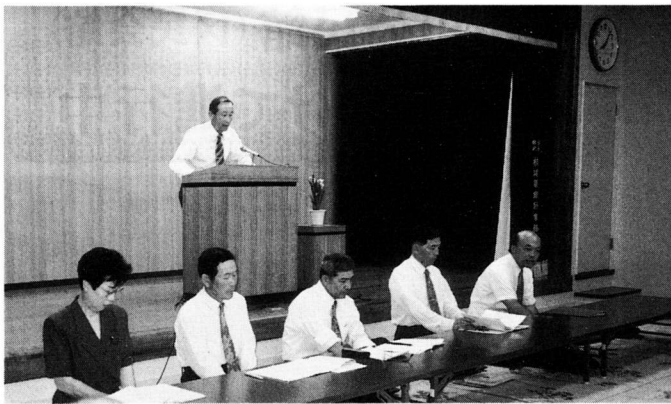
◎熊谷社会委員より

公共下水道の土地買収も済み、全体の工事を三期にわけ、第一期を下市田四

十一月に完成。南大島川の南、ふるさと農道・広域農道・農免道路など五線あるが、縦の線に力を入れたい。（湯ヶ洞線は道幅六・五m、歩道一・五m、全長三kmを二十億円の予算で計画。舗装工事を、二千万円の予算で行う。

◎熊谷社会委員より

公共下水道の土地買収も済み、全体の工事を三期にわけ、第一期を下市田四



残高は八十億余だが、交付分があるので、実質返済額のは、四十六億円となる。山の寺研修センター（元実践学園）の今後の利用方法として交流・合宿・地域の活動などに利用する。宿泊した場合町民

千二百円、町外は千五百円、会議で利用した場合一日九百円、半日五百円で利用できる。借地代として年間二百三十万円を支払う。戦後五十年の生活記録誌は、八月発行予定。非常持ち出し袋は、（二千円）三千四百個用意して、防災の日に合わせて全戸配布予定。尚袋の中身については、各家庭で用意する。

敷地内に郵便局を設置要望中（マルマンさん了解済み）。ビーワンと国道の交差点に信号機を設置する予定。牧の内堤をブロックで階段方式にする計画があり、費用はかかって実施する予定。元つばやの道路が狭いので、広くする計画がある。

十一月に完成。南大島川の南、ふるさと農道・広域農道・農免道路など五線あるが、縦の線に力を入れたい。（湯ヶ洞線は道幅六・五m、歩道一・五m、全長三kmを二十億円の予算で計画。舗装工事を、二千万円の予算で行う。

◎熊谷社会委員より



特集

巡礼沢に思う

二区 北原 金二



砂防工事完成と河川改修工事が施行される以前の下市田座頭崖を上流に持つ江戸ヶ沢水系と、巡礼沢崖の崩落荒廃地を上流に持つ黒沢水系の、下市田下段地域及び河原水田地帯は、絶えず崩落する土石を両河川が運搬し埋めて天上井となり、年々風水のため大災害を起し、地域住民に絶えず不安を与え、耕作者は少なからぬ被害を受けていた。

巡礼沢は北から南から迫る急斜面をなす崩落荒廃地にて、元牛牧村の区有地、面積三丁四反一畝歩(明治時代地価四円二銭)、荒廃地の上に主権者は牛牧区であるので管理もままならず、年々風水のため災害を起し、耕作者に少なからぬ影響があるので、牛牧区より借地として明治十年頃(一八七七)地域の有志が管理する事になった。当時借地

料七円位支払っていたとのこと。大正三年(一九一四)

黒沢水系保全のため保安林とし県は指定して免租した。

大正三年頃から管理のため青年団に委嘱して草刈りなど行った。昭和三年(一九二七)下市田区の管理に入る。昭和七年(一九三二)

本格的な砂防工事を始め、県営砂防工事として地元が請け負うことになり、団費の補助を受け下市田青年団が中心となり、県林務課の指導により工事を行う。時の壮年団長木村政治氏、代理会計北沢宗一氏、現場主任松代作一氏のもとに、団員総労務をなし工事を敢行す。工事竣工まで数年かかったが、その間の壮年団員の努力と松代主任の奮闘は銘記すべきである。

砂防工事が立派に完成し、黒沢水系の治水完成は、地域住民に一番有難い喜ばしい安堵である。

昭和十三年(一九三七) 所有権委譲：買収ー

所有権委譲から買収に至るまでの由緒と経過昭和八年頃、座光寺村有

林と牛牧区有林の境界に付き長期間に亘り紛糾していた。隣区の下市田区が座光寺村と牛牧区との間に立つて其の仲介の労をとり、両者が円満に解決す。

牛牧区代表者

田上丸弥氏

下市田区長

塩沢伝兵衛氏

代理

倉沢安市氏

会計

伊奈川希太郎氏

保護委員長

福島庄太郎氏

牛牧区から謝礼の印を表

したいとの申し出があったので、巡礼沢は牛牧区有地にて主権者であるが、下市田区は一番関係もあり、治水の上でも下市田区有地として名実共に管理したい旨を伝えた。当時の巡礼沢は荒廃地にて牛牧区には負担のかかるお荷物であつたかも知れないが、常識として

も三丁七反に及ぶ里山を下市田区に譲るには大いに抵抗があつたと思われ。当時の下市田区の当局者と牛牧区代表田上丸弥さんの英断の一致

を得て昭和十三年(一九三八)所有権委譲し買収することに決定した。

牛牧 一七四一一番地

三七反〇二〇

所有者 萩山神社

所在地 牛牧巡礼沢

沿革

牛牧村共有地

大正三年保安林に編入

六月免租地となる

三丁四反一畝歩

地価四円〇二銭

公認事由

大正十五年(一九二六)

二月

一旦所有権移転

所有者 塩沢伝兵衛

倉沢安市 福島庄太郎

昭和十五年二月一日

所有権移転 萩山神社

昭和三十三年一月二十九日

所有権保存 萩山神社

昭和三十三年一月二十九日



所有権移転 萩山神社

牛牧 一七四一四番地

畑一反〇三七

所有権移転 萩山神社

牛牧 一七四一五畑

一畝〇式

所有者所在地牛牧 全

牛牧 一七四一六

保安林二丁五反四畝七八

右 全

牛牧 一七四一七

保安林二丁五反一畝一〇

右 全

牛牧 一七四一八

全 一畝九二

右 全

牛牧 一七四一九

全 四畝〇六

右 全

地代として牛牧区に九二

〇円支払つたと言われている。昭和十五年(一九三〇)

萩山神社所有地として法人登記を完了して今日に至る。

その節記念碑を建立し、其の経過を銘記すると共に其の古由にかける労をねぎらい神事を行なった。

この折の記念碑

表面 記念碑

裏面 林務課長 小泉 清

所有権取得

昭和十三年四月

県直営及び補助工事

荒廃地復工事完成

着工 昭和 七年

完工 昭和十四年

巡礼沢の砂防工事完成

下市田区有地萩山神社所有

地となつて五十有余年を経

過し、適切な管理と植林

により美林となつて成長し

ている。数年前川端の松の

間伐をし所得があつたと聞

いている。近い将来必ず近

郷に誇れる美林となり、萩

の里下市田区民に治水と共に

有形無形に貢献する日が

必ず来る。昔から因縁浅く

ない、巡礼沢を守り盛り上

げ管理し、立派に成長しつ

つある今日の巡礼沢の形を

見るにつけ、故人となられ

た先輩達の功績を讃え、適

切なる管理と絶え間なく注

ぐ、下市田区民の愛育の賜

物である。巡礼沢の成長は

繁榮していく萩の里下市田

のシンボルである。

北原さんは郷土史に造詣

深くこの地方の歴史地理等

に精通して居られる事は夙

に知られて居ります。

この土地には複雑な経過

があり北原さんは実に細か

く丁寧に記述されています。

区民の方々にはこれを熟読

せられ、あの土地の認識を

深められるよう希望します。

(仲平真司記)

五区のコミュニティの紹介

五区部落主事 小島 俊孝

を午前中南小体育館にて、常会対抗をトーナメント方式で勝負を競い合った。午

五区のコミュニティ事業を紹介します。九月にスポーツ大会を、十月にアパート及び独立世帯の方達との懇談会を計画実施しています。スポーツ大会については、ソフトミニバレーとグラウンドゴルフを行います。

今年はまだ実施していませんが、昨年の場合ソフトミニバレー

二十一世紀にさがけて

六区部落主事 壺 三郎

するものとのこと

現在出砂原の回りは、大中小店舗や住宅や工業団地に囲まれ時勢の流れに条件が伴わず、街並も空間が目につく程になってまいりました。今年出砂原は九月の初め頃までに三件の工事が完成します。又出て行かれるのも二店あり年々変わっております。この春天竜社残地跡に町が有事の防災を含めた多目的広場の建設を完成致しました。平素は町民のコミュニティ活動として、一旦有事の際緊急避難場所や被災者の仮設住宅に、多目的スペースとして利活用

五月二十六日出砂原自治会コミュニティ事業を早速出砂原グラウンド併用の大広場の中で大勢参加して常会対抗グラウンドゴルフ大会を行いました。六月二十四日市田駅前



参加者も一四五人と多数で表彰式も盛大に行われ、また、第二部の懇親会は時間の経つのも忘れ有意義なスポーツ大会であった。

新築完成した八十二銀行市田支店が開店致しました。町の玄関口に相応しい威容と駐車場にも余裕を感じ付近一帯の環境整備も出来た、明るく落ち着いた街並となりました。最近朝霧道路も下市田国道へつながりこれからの駅前発展と活性化に期待をもつものであります。九月二日新神明橋の完成式典が行われます。六〇有余年をつとめて終る橋と二十一世紀に向かって生れた橋に時勢相応の反映を思い凡べて変わっていく気がする。出砂原道路取付や住宅移転がこれからも続いて行く中で関係者の要望に合わせて街づくりにより自治会も対処し



十月行われたアパート及び独立世帯の方達との懇談会では、日頃お互いに接する機会が少ないため交流会を設けスムーズなお付き合いができることと、子供達を含め地区のコミュニティへの参加や道路河川清掃、ゴミ処理等多方面に亘って話し合い親睦を深めることが出来ました。

その他学校の週五日制に伴い月に二回の土曜日は家庭と地域に任せられることになったことから、生涯学習分館活動補助事業の支援

なければならぬ。昭和六十三年町の振興総合計画策定に出砂原も年次住みよい街づくり、環境づくりを進め大変よくなっております。観光の面からも地区の発展と商店街の活性化につながってほしいものと思います。

萩の里祭りを終えて

暑さも忘れて盛踊り

教養部

を受け、小中学生を対象に『郷土料理と地域史跡の探訪』と銘うって、昨年九月に実施しました。まず、郷土料理では五平餅を地域の木村勅代さん、北原貞子さん、小川千恵子さん、林いすずさん、細江元枝さん方の指導で子供達を中心に作って食べる事ができ、子供達の真剣な姿を見る時、次

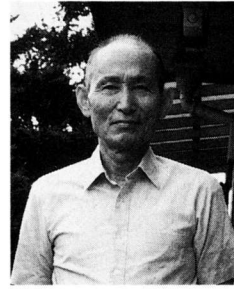
夏の一夜を区民こぞって楽しく過ごす「納涼盆踊り」萩の里祭りが、七月二十七日(土)午後六時半より、下市田保育園グラウンドにおいて盛大に行なわれました。一番心配された天候にも恵まれ、全員による納涼盆踊り、各区による高森音頭他発表会・子供さんによる花火大会・エアロビクス大会・〇×クイズ大会と楽しく繰り広げられました。今年は盆踊りの練習会をやりましたでしたが、炭坑節・竜峽小唄・水戸黄門おどりとおなじみの曲でしたので、民踊クラブの方と一緒に皆上手に踊っていました。各区の発表会では、忘れかけていた市田音頭や区で考案された編曲マーチの楽しそう

代に受継ぎ引継ぐ意義の大切さを知りました。また、地域史跡探訪では山本脩平さんに講師をお願いし、座学と共に戸外に出て今は使われてない昔の道や道標や塚を見学し説明をしてもらい、私達が生れ住んでいる地域の歴史を知ることが出来、またその大切さを感じました。

アイラブ故郷

三区出身 松 梶 秀 治

(豊橋市在住)



色づいた市田柿のステレ、上中下段に分かれ

天竜の流れに沿う黄金の稲穂、桑畑・水田・農家と

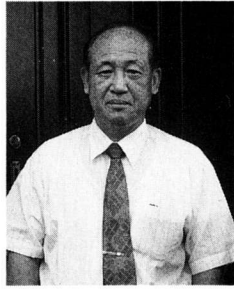
た下市田の郷は、子供の頃より戦中戦後の何時の日も鮮明な形で浮かび上がってきます。

下市田のみなさん
こんどちは

勘太郎月夜

四区出身 北原 正 利

(横浜市在住)



また、今夜も五時から男は、都会の片隅で、♪「影か柳か勘太郎さんか」と歌い出す。出稼ぎに出て以

聞き手の思惑やテンポのズレを気にしなければ、ストレス解消にもってこいだ。お国自慢の名調講釈は、「市田柿」「天竜下り」「蜂追い」「長姫甲子園優勝」など、物心ついた頃、雨の晩、母親に「泣く子はアマオウジに掠られる。」と、恐怖心を植付けられた。臆病の性格は、その時の後遺症と思

い出に耽る齡となりました。戦争終結と三六災害、また高度成長・バブル崩壊などの変遷と、構造改善等区民皆様の努力を経て、繁栄を続ける下市田は、何時も他郷に住む私達の誇りと一寸した羨望の故郷です。

退戦後、請われて月の半ばをアルバイトに、余暇は好きな花や野菜を育て、そして時には近く、時には遠くへとカメラを肩に、足は自然と故郷へ向かいます。離れて想う故郷と皆様の一層の発展を祈ります。



宣 誓



開 会 式



表 彰 式



熱 戦 中

六月九日行われた下市田スポーツ夏季大会には、天候がわるく、スローピッチソフトボールはできずに、ソフトバレーボールのみとなりましたが、応援に、試合にと、多くの人たちが、集まった大会になったように思います。今まで上位をしめていたチームが下位、

又、下位チームが上位となり、今までの大会とは、ちょっと違う大会であったと思います。多数の方々のご協力ありがとうございました。大会の結果を報告します。

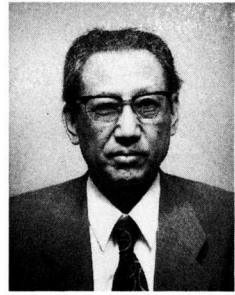
下市田区スポーツ大会
■ 体育部 ■

(木村政男さんの甥)

(仲平眞司さんの弟)

心なごむフラワーロード

三区 本堂 善夫



た。それに加えて、ビニールの紐や袋、ジュースやコーヒの空き缶、ダンボールの紙片やキャラメル空箱などが、風に吹かれて舞い落ちていた。

「草の根が深く張っていてなかなか切れないなあ。」「空き缶などは、車からのゴミ捨てが多いのじゃあないのかなあ。」「三月の頃、除草剤を撒いておくと手間どらないかも知れないな。」など、会話しながら手入れ

落葉低木で高さ約一メートル位となり、夏から秋にかけて淡紫、淡紅、白色などの花が、朝開いて夕方しぼんでいる。日中、車道走るドライバーや歩道を歩く人々の心を和ませている。

このフラワーロードを毎年三区では、常会毎、当番で、草とりや手入れなどの作業を行っている。

四月に入り平成八年度の第一回目の作業が三常会合同で行われた。

一冬を越してきたあとのこととあって、土もかたく根の深い草も生えていて作業もなかなかはかどらなかつ

に精を出している。

約一時間余りで、長いと思われたフラワーロードの作業も終えることができた。

真夏になった今、三色の木槿の花が美しく咲いてい

灯籠流しに思う

六区 榎原 まつ子



今年も又夜空を彩る灯籠

る。

このフラワーロードの美しい姿を見て、この町に住む人々の高い所へのぼろろとする心の美しさを見るような気がしてならない。

流しの火花が上がる。配られた番付表を見ているうちに、昔の灯籠流しの街の様子が脳裏をよぎった。方針が変わってから何年位になるのか、記憶は定かではないが、当時は何日前に部落総出で準備だった。街の両側に並ぶ商店の脇に柱を建て、スポンサー名の入った横長の行燈が柱の先端に麻縄で釣り上げられ飾られ

る。それには涼しげな絵が書かれていて素敵であった。ホーズキ堤灯の列の上に絵入りの行燈、夜ともなると各商店の店あかりとで坂の街出砂原が一変したように綺麗に見えたものでした。夕方臨時・定時の電車が市田駅に入る度に、改札口から押出されるように老若男女の人の波、天竜の河原へとその人波が動く、駅前では盆踊りの輪が出来、通れない人は私の店の中を抜けて、いつ時店先が道路になつてしまふ程であった。花火と平行して行われる盆踊りは夏の夜を惜しむかのように十二時頃まで続いていたものでした。

世が進み大型車の往来が激しくなった道路には、行

燈のあかりも消され、今では踊りの輪も駅前からお祭り広場へと移動してしまつた。「工事中の神明神橋が灯籠流し煙火大会の観客席として、飯田建設事務所のご好意で使えることとなりました。ご希望の方はシートやござ等を用意し十八日に場所をお取り下さい。」出砂原自治会 とある。

世の移り替わりと共に今後の灯籠流しの風情も変わって来るのではないかと思う。明神橋が生れ変わることで出砂原の街もどんな様になるのでしょうか？皆、時の流れに押し流されまいと一生懸命生きていて、思い出の中に身を置きながら、何んともやり切れない此の頃である。

てしまった。

しかし、「バブル」の結末は、気の遠くなるような桁の金の暗躍や、私たちがなぜか巨万の借金をかかえる債務者であるという事実を目を向けさせてくれた。

あわせて丸山先生の死が、どうやら、「であること」を支える「すること」の重要性も思い出させて下さったようだ。

随想



いつまでも心にとめておきたい

「であることとすること」

一区 熊谷 豊 治

この夏、亡くなられた丸山真男先生の文章は、「であることとすること」という標題で高校国語の教科書に長いこと掲載されていた。

『債権は請求しなければ私

のものであることをやめる』という比喩から、国民の権利について説き起こした有名な民主主義論だった。

私の育った時代は、古いものと新しいものが混在し、戦後の混乱、再出発、高度成長の中で生活してきた者は、多く「すること」が「得る」ことにつながることを学んだ。無を有に変えるためには「すること」が

二く子ども会 なつのぎょうじ

小二 中村和博(二区)

八月四日、日曜日のご三時から、二く子ども会のぎょうじがありました。はじめにたからさがしを

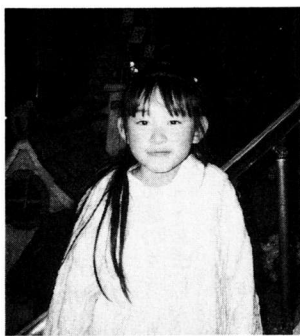


右が和博君

紙をとり、そこに書いてある場しよにあるいきます。四はんは、子どもたちでうえた、かへいきました。

わたしの夏休みで 楽しかったこと

小四 細江夢心(五区)



わたしの夏休みで、楽しかったことは、五区のみん

なで野田平キャンプ場へ、行った事です。始めは、すごい山道なので、へびとか出ないか、心配でした。何分かつたらきれいな川が、見えましました。遊んでる人もいました。「まだかな」と思ったら、着きました。かんり人さんにあいさつしたり、話

わたしの作文 ぼくの作文



いって見るとまた紙があつて、つぎのところが書いてありました。さいごは、天りゅう川でした。天りゅう川へついたじゅんにすきなおかしをもらいました。ぜんぶのはんがそろつてから、石のおもさあてゲームをしました。はかりでは

をきいたりして、いよいよ楽しみにした「川遊び」です。おひるを食べて、川へ行きました。川は、ふかい所もあつたし、石や岩がゴツゴツした所もありました。水の中に小さいお魚がいっぱい、泳いでいました。しばらく遊んだら、おや

かって、五〇〇グラムにーばんちかいはんがゆうしようです。ぼくたちは四いでした。

ゲームのあとみんなでおこのみやきとやきそばのよういをしました。外で食べるのは、おいしくて四回おかわりしました。すいかもたべました。くらくなってから花火をして、はんどごに、会しょまで、どきょうだめしをしながらかえりました。たのしかったです。

つ、ジャガイモと、とうもろこしを食べました。おやつを食べたら、夜ごはんのじゅんびをしました。メニューは「カレー」。「どんなぐらいおいしいかな」と思いつながら、じゅんびをしたら、すぐにできました。食べたらずごくおいしかったです。食べ終わったら、夜、楽しみにしていた、「きもだめし」です。「こわくてびっくりするぐらいかなあ」と、しゃべりながら行ったら、ぜんぜんこわくなくなりました。早く花火をもらって、帰って来ました。次は、花火とキャンプファイヤーです。その後、ジュースをのんでこわい話をきいてねまし

上高地を訪ねて

中一 林 愛美(四区)

七月二十九日、夏休みが始まってまもなく、夏の小旅行に、父と母と私の三人で出かけました。



右が愛美さん

目的地は「上高地」。長野県を代表する観光地をこの目で見て、大勢の人たちが、訪れる理由を知りたいと思って出かけました。早朝五時に出発。沢渡の駐車場で車を降り、バスに乗りかえ四十分で上高地の大正池に着きました。こわい所によく道ができたものだと、釜トンネルの中では、びっくりしたり、ひやひやしました。停留所から大正池のほとりをゆっくり散策を始めました。写真の通りの風景、朝もやが少しかかって、きれいな、美しいのひと言、この美しさは、子供じゃわからんだろうなあって、大人は言ったけど、私にだっ

七月二十九日、夏休みが始まってまもなく、夏の小旅行に、父と母と私の三人で出かけました。

目的地は「上高地」。長野県を代表する観光地をこの目で見て、大勢の人たちが、訪れる理由を知りたいと思って出かけました。早朝五時に出発。沢渡の駐車場で車を降り、バスに乗りかえ四十分で上高地の大正池に着きました。こわい所によく道ができたものだと、釜トンネルの中では、びっくりしたり、ひやひやしました。停留所から大正池のほとりをゆっくり散策を始めました。写真の通りの風景、朝もやが少しかかって、きれいな、美しいのひと言、この美しさは、子供じゃわからんだろうなあって、大人は言ったけど、私にだっ

四日にスイカわりがありました。わたしはかすっただけでかなしかったです。

てちゃんとわかっていました。こんな風景見たことない、ボスターのまま。これで少し人が少なかったら、どんなにすばらしいか。なんて思いながら、ゆっくりゆっくり梓川ぞいを歩いていきました。約一時間歩いて、ウエストーン碑を見て河童橋につきました。私はこれで終わりだと思つたらまだまだ歩くといいました。明神池までの三km余りはたいへんつらく思えました。でも、苦勞して歩いた所はやはりすばらしく、来てよかったと思えました。

上高地を訪れて思つたことは、この美しさがいつまでも続いてほしいということです。本当にすばらしい所でした。



ハッピー会

小川 みよ子

グループ紹介

私達のクラブ「ハッピー会」は、人員十二名で構成されており、平成五年に発足しました。日頃それぞれ

の立場（農業、自営業、勤め人）で忙しく働く中、近所においても、なかなか顔を合わす機会ありませんでした。そんな時「会」を作ろうと言うお話があり、一

れないという人でも、ボーリングなら出来るというように、体の使うところが違えば、またみんなで楽しめるものです。春のお花見、夏の暑氣払い、秋の紅葉狩り等、季節に合わせて行っ

ておりますが、このようなお楽しみ会には、ほとんど全員が出席し、思い思いの話に花も咲き、カラオケが始まれば、リズムに合わせてダンスも始まり、時には「おどり」も出て来るとい

下市田四区大正琴クラブ

高山 遼子

私達下市田四区大正琴クラブは、昭和五十四年に発足しました。現在、九名のクラブ員です。

月に二回集まって練習を行なっておりますが、今までに、ナツメロを中心に、四十五曲程教えていただきました。

始まるのです。日頃の練習をテープに納め、有線放送へお願いして番組の間に流していただいております。

りではあります。そんな時は人数の少ないチームと一緒にやらせて頂き、時間のある限り、びっしり汗をかいて楽しめします。また、年二回位ボーリング会も行っており、足が痛くてミニバレーに出

毎年三月に発表会があります。日頃の練習成果を確かめる良い機会ですが、他のグループの曲を聞くのも楽しみです。自分達も一生懸命やろうと、練習に一段と熱が入ります。



足以来早や十七年です。最初は慣れない楽器と楽譜でスタートしたが、私達ですが、クラブ員みんなのチームワークで、一

編集後記

道路も畑の土も、全てのものがカラカラに乾ききってしまった。先号でも異常気象のことに触れたが、このところの雨の少ないのは、全く参ってしまおう。これで人間の心まで乾いてしまったら終りだ、つくづく思う此の頃である。

この三十五号に、北原金二さんの「巡礼沢に思う」を漸く掲載することが出来た。実は、この原稿は昨年早くに頂いていた。然し公民館改築の研究から建築、加うるに秋山神社の宝刀問題やら、郷土芸能の獅子舞二百年祭と特集記事が続き、心ならずも掲載が遅れ遅れになってしまった。この紙面で改めてお詫びを申し上げます。考えてみれば、このように下市田区の大きな出来事なり、大切な歴史を、正確に記録に残しておくことが、区報・館報としての「秋の郷」の使命であると思ってい

